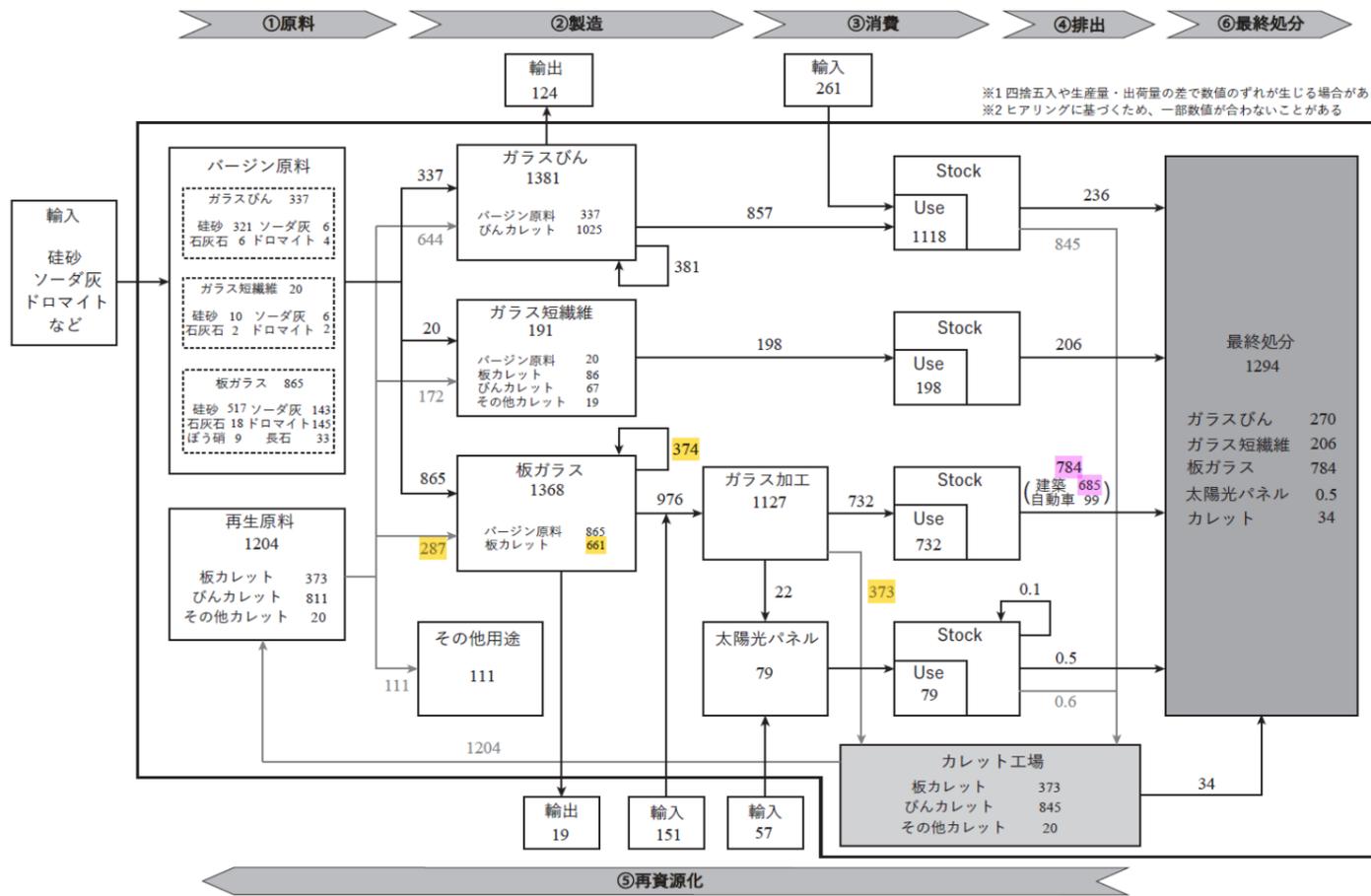


### 板ガラスポストカレットの回収可能量の推定

#### 1. 前提となるマテリアルフロー



#### 2. リサイクル率算出のロジック

##### 【建築用】

1998年（25年前）の生産・出荷状況により市中ストックのガラス種構成を類推する

1998年窯業建材統計
板ガラス出荷
30,880 千ccs
(工場倉出)
<b>286,875 千m<sup>2</sup></b>

建築用	千m <sup>2</sup>	千m <sup>2</sup>	全出荷	構成比
※切断歩留 0.65				
板ガラス	225,294	146,441	市販構成比)	
(定寸+原寸素板)		F+FL: 115,688	79%	<b>60%</b>
		FW+PW: 12%		
		熱吸: 9%		
※素板換算				
複層ガラス	10,789	21,578		11%
合せガラス	12,304	24,608		13%
	61,581	46,186	※切断歩留 0.75	24%
(素板)				
合計	286,875	192,627		

某社の1998年の市販構成比  
 F+FL: 79%  
 FW+PW: 12%  
 熱吸: 9%

上記赤字のガラス種についてはFLへのリサイクル困難種ととりあえず置く  
 市中ストックの約40%が該当と推定  
 従って、

ポストカレット使用可能性を60%とすると  
 $685\text{kt} \times 0.6 = 411\text{kt}$

はリサイクルできる可能性高い。

但し、実際に回収できるかどうかは解体される建物の状態や地域性による制約が考えられる

##### 【自動車用】

自動車完成品は中古車も含め輸出比率が高いので廃板ガラスの回収可能性は国内の廃車からの発生ベースで推定する

現在「J-FAR実証事業」において廃車から発生する廃板ガラスのリサイクル可能性を探索中であるが、フロント、リヤガラスは異物付着の完全除去について見通せない状況である

従って、

『サイドライトのみを回収対象とする』  $99\text{kt} \times 0.25 = 25\text{kt}$

一方、7年前の自動車ガラスの製造比率は

透明・ライトグリーン	40%
UVグリーン+プライバシー	55%

利用可能なポストカレットは  
 $99\text{kt} \times 0.25 \times 0.4 = 10\text{kt}$

※製造比率による影響は要精査

#### 3. 提案

建築用+自動車用のポストカレットのリサイクル可能量のMAX（回収条件を考慮しない）は、

建築用: 411kt + 自動車用10kt の421kt

とし、このリサイクル可能量推定をベースにリサイクル率のKPIを設定してはどうか